

## 沼津市南部静浦山地の地質

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-12-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 豊 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00026116">https://doi.org/10.14945/00026116</a>

# 沼津市南部静浦山地の地質

高 橋 豊

## I 地質のあらまし

静浦山地は伊豆半島の頸部に位置し、西に愛鷹・達磨・井田の愛鷹火山列、東に箱根・湯河原・多賀・宇佐美・巢雲の箱根火山列、南に天城火山群などの第四紀火山を配している。本地域は主としてこれら第四紀火山の基盤をなす第三紀層から成り、化石を骨組みとした時代区分の上に、地層累重関係を加え考察した結果、第一表のごとき層序関係が明らかになった。すなわち湯が島層群下部層に相当する徳倉変朽安山岩層は、変朽作用を受けない香貫山安山岩層（湯が島層群上部層にあたる）に不整合に被われ、最下位とみられる。これら海底火山噴出物からなる湯が島層群の上に広域に分布し、断層で接する静浦層群の地層は礫として徳倉変朽安山岩、香貫山安山岩を含むのでこれより新しく、

第1表 地質総括表

新 生 界	第四系	更新統 (洪積)	長岡段丘堆積物 { 関東ローム層 箱根火山噴出物
	第三系	鮮新統	内浦火山角礫岩層 { 安山岩岩脈、火山碎屑物 複輝石安山岩層 石英安山岩層
		上部、中部、中新統	静浦層群 { 江ノ浦層 { 鷺頭山大平山安山岩層 江ノ浦白色凝灰岩層 大井凝灰角礫岩層 長岡層 長岡凝灰岩層 日守層 日守凝灰岩層
		下新部中統	湯ヶ島層群 { 上部層 香貫山安山岩層 下部層 徳倉山変朽安山岩層

下田付近の白浜層群（上部中新～下部鮮新統に対比される内浦火山角礫岩層に不整合に被われること、また貫かれることから、これより古く、時代は中新世中期～後期と推定される。これらの第三紀層を

不整合におおひ長岡段丘堆積物（更新統）は主として箱根火山噴出物（軽石流）よりなり、上位にうすくローム層をのせている。

## II 湯ヶ島層群相当層について

### (1) 徳倉山変朽安山岩層

本層は岩相から湯ヶ島層群下部に対比される。上位の香貫山安山岩層とは、外原浄水地付近 85 m で不整合に接するが、不整合面は不明瞭である。本層の複輝石安山岩は横山北方の山腹石切場では緑色を示し、斜長石の斑晶が目立ち、空隙には菱沸石、方解石などの晶出をみる。下徳倉の本城山では帯紫緑色を示し、1~3 mmの斜長石、輝石の斑晶が目立つ。また香貫山南麓~徳倉山北麓では、高圧のもとでの熱水作用（200~300℃）と酸化作用が著しく、茶褐色の軟弱粘土と化し、黄鉄鉱の微晶を晶出するほどに変朽している。

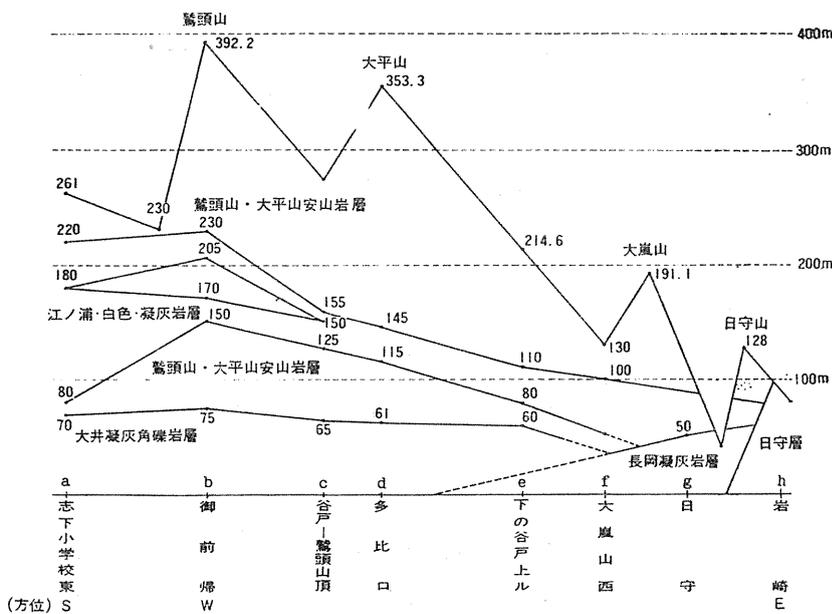
### (2) 香貫山安山岩層

本層は香貫山、牛臥山を構成し、二層よりなる。下部層は主として赤褐色ないし灰色の火山角礫岩よりなり、上部層は複輝石安山岩からなる。上位程溶岩層が卓越し、下位に2~3枚、100 mに2枚、135 mより数を増し、150 m~山頂には擾乱し、板状節理の縦横に発達した50 m程の厚さの溶岩層がある。複輝石安山岩は緑灰色、変質すると硬質脆弱な帯赤紫色を示し、斜長石、輝石の斑晶が目立つ。

## III 静浦層群の層序・岩相・構造

静浦層群の層序は第2図のとおりである。

第1図 静浦層群の層序模式断面図



### (1) 日守凝灰岩層

日守山西麓で上位の長岡凝灰岩層の赤褐色砂岩がこれを被う。風化面は黄緑色礫質を示す雑色性凝灰角礫岩よりなる。模式地は岩崎の石切場。

### (2) 長岡凝灰岩層

緑泥石化作用を受け青灰色~緑色~濃緑色を示す凝灰角礫岩および凝灰岩。風化部分は茶褐色、特に砂礫粒子

間に白色のシミが目立つ。本層は岩相により、さらに三分される。一般に南西より北東に向う程上位で、下部層は長岡温泉西方戸沢部落石切場の淡青色凝灰岩(黄鉄鉱の微晶顕著)で代表され、中部層は長岡温泉北口の石切場にみられる濃緑色凝灰角礫岩で代表され、緑色変朽安山岩礫、珪質赤褐色安山岩礫(1~3 cm)を多く含む層が上位に続き、淡黄緑褐色凝灰岩との互層へと漸移する。上部層は長岡町坪内~珍野~口野に至る丘陵に発達する褐色~黄緑色を示す砂質凝灰岩でサメの歯などを夾在する化石帯(ヒヨク貝、ウニの棘、カキ、フジツボなどが主)を有し、また上位ほど濃緑色硬質の砂岩層と互層し、斜交層理が発達してくる。本層は上位の江ノ浦白色凝灰岩層とは不整合の関係にある。走向・傾斜は長岡付近→江間にかけてN 30°W、15°E ~ N 60°W 15°Eを示す。層厚は長岡温泉付近のボーリング結果75 m ~ 77.5 mで石英安山岩に突き当ることから、少なくとも180 m ~ 200 m以上で400 mくらいと思われる。

### (3) 大井凝灰角礫岩層

暗灰色1~7 mm程度の安山岩質角礫を同質細粒物質で充填固化したもので、鷲頭山、大平山北麓一帯に分布し、大井から東に向って、安山岩質角礫が同大の淡黄灰色凝灰質角礫と置換して、岩相の変化をみる。上部は砂質部分もみられ、互層をなしている。層厚は南に薄く、江ノ浦側には存在しない。

### (4) 江ノ浦白色凝灰岩層

石英安山岩質白色凝灰岩で軟弱無層理の部分もあるが、よく斜交層理が発達し、浅海堆積物であることを示す部分が多い。このほか淡黄緑色あるいは雑色性の安山岩質凝灰角礫岩の部分(江ノ浦海岸にみられる)、淡黄褐色無層理の泥質~砂質凝灰岩の部分もある。後者は第二者にはさまれる層厚35 mほどのレンズをなしている。これらは鷲頭山、大平山、徳倉山安山岩層の基底をなし多くの岩株、岩脈に貫かれている。走向・傾斜はN 60° ~ 40°W・15°EでNE方向に緩い傾斜を示す。

### (5) 鷲頭山・大平山安山岩層

鷲頭山は主に複輝石安山岩の碎塊溶岩(Block lava)、大平山では同質火山角礫岩が卓越する。また下位程無層理の火山角礫岩から成り、両輝石安山岩の溶岩を挟む傾向がある。層厚は210 mほど安山岩は黒褐色、1~2 mmの斜長石の斑晶、普通輝石、紫蘇輝石、磁鉄鉱などを含む。

### (6) 長岡凝灰岩層と大井および江ノ浦白色凝灰岩層の層序関係

両凝灰岩層の層序関係は沼津市獅子浜~伊豆長岡古奈を結ぶ線上で①志下及江ノ浦で安山岩類の貫入に伴い下位の長岡凝灰岩(緑色)が江ノ浦白色凝灰岩と断層で接し上ってきていること。②口野には斜交層理を伴った両者の指交層理がみられ、堆積時期の接近が考えられるが、江ノ浦白色凝灰岩中には緑色硬質円礫1~3 cmを層状に含むこと。③伊豆長岡白岩東方で上位の白色凝灰岩が根なし岩として塊状分布し不整合で接すること。などから両者は不整合関係にあると推定される。大井凝灰岩層と両層の関係は日守付近の精査にまちたいが不整合関係にあるものと推定される。

#### IV 内浦火山角礫岩層

##### (1) 複輝石安山岩

岩株、岩床、岩脈として静浦層群を貫く。採石の容易な北江間のものは、他地域のものより白っぽく、斑晶として斜長石、普通輝石、紫蘇輝石を、また角閃石を含むこともあるが結晶はごく小さい。一般には青灰色を示す。

##### (2) 石英安山岩

岩株をなす。内浦の重寺、小海には7～8 mm程度の斜長石、石英の斑晶を含むものがあり識別は容易である。獅子浜のものは同質のゼノリスを含む。

#### V 静浦山地の第四系

これまで述べた第三系の山麓に二つの段丘がみられる。

##### (1) 長岡段丘

伊豆長岡温泉場西の小盆地、長瀬、田端、皆沢、別所、北の珍野に良く発達し、標高30 m 比高15 mを示す。長岡凝灰岩層を不整合に被い、主部は炭化木片を含む箱根火山軽石流で、上位に薄くローム層をのせている。

##### (2) 志下段丘

志下北方に凹地を伴った海岸沿い唯一の段丘で標高30 mを示す。

#### VI 静浦山地の地質構造

本地域の第三系は地塊に分裂する傾向がある。褶曲構造として、口野～珍野間にNNE－SSW方向の背斜軸をもつ緩かなドーム構造、<sup>マ</sup>間<sup>カミ</sup>の上にN－S方向の軸を有する向斜構造が認められる。そのほか小断層群がNW方向に集中する傾向がある。地塊構造は中新世末、鮮新世末の地殻運動の結果と考えられる。

( 県立三島北高校 )

第 2 図 静浦山地地質図

